

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520338

研究課題名（和文） 現代中国語における空間認識に関する体系的研究

研究課題名（英文） A Systematic Study of Spatial Perception in Modern Chinese

研究代表者

丸尾誠（MARUO MAKOTO）

名古屋大学・大学院国際言語文化研究科・准教授

研究者番号：10303588

研究代表者の専門分野：現代中国語文法

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：中国語 空間認識 移動動詞

現代中国語文法 方向補語

1. 研究計画の概要

本研究は申請者（丸尾）がこれまで取り組んできた、文中で中心的役割を果たす動詞の中でもとりわけ人間の認識が反映されやすい「移動動詞」の研究をさらに体系的に発展させることを主目的とし、従来の先行研究において多くみられた個別的な事象の指摘にとどまらない「言語と認知」との関連という立場から、中国人の空間認識の言語事象への反映について、より合理的かつ包括的な解釈を目指すものである。現代中国語における空間表現に関する各種文法研究のテーマの中で、発話者の空間認識が顕著に反映された文法事象の1つが「方向補語の派生義」であり、本研究課題において、主に各種方向補語の用法に関する体系的な解釈の構築を試みている。

2. 研究の進捗状況

平成19年度の研究成果である論文「現代中国語の補語“起来”について」では“起来”の表す各種意味の内在的な関連性について言及した。そして、“起来”の表

すいわゆる集中義が想起させる「形成」という概念が「結果義」に混在する各種意味においてどのような形で実現されるのかについて述べた。また、前述のテーマとの関連で論じた論文「中国語における「開始義」について — 方向補語“起来”の用法を中心に —」では、“起来”の代表的な用法である「～し始める」という開始義およびその周縁的な用法について考察し、アスペクトに関わる意味が、モダリティに転用される状況について述べた。論文「現代中国語にみられる空間認識」では、方向補語の派生義は一定の基本的枠組みに基づいて派生したものであるという推測をもとに、現代中国語にみられる空間認識の複雑さを、日本語との対照も考慮しつつ、認知的アプローチで解明することを試みた。また平成20年度の研究成果である論文「中国語の動補構造“V進(来/去)”について」では、当該フレーズにおける述語動詞と補語“進(来/去)”の間にみられる動作の発生

順序に関する複数の意味関係に着目したうえで、その他動詞的用法について考察した。そして平成21年の研究成果として発表予定の論文「中国語の方向補語“出(来/去)”の表す意味」ではその反義語である“進”がいわゆる派生義の用法に乏しいのとは対照的に、「結果義」をその主な用法として有する“出”類の表す意味について、それらと結び付く動詞の意味特徴に基づいて考察を試みた。考察の過程において、“賣出”および“買進”の組み合わせに比して使用頻度が低い動補フレーズ“買出”の用法を特に取り上げ、それに関連する周辺的な文法事象についてもあわせて論じた。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

空間義からの転用をベースとした各種方向補語の派生義の用法に対する考察を積み重ね、口頭発表および論文執筆を行ってきた(個別の研究成果については下記5の欄を参照のこと)。さらに中国語教育の現場への還元を目指して、本研究課題における一連の成果を反映させたテキストや文法書の作成にも別途取り組んでいる。

4. 今後の研究の推進方策

いわゆる典型的な方向補語とみなされる“上、下、出、進、回、過、起”のうち“上、下、回”を除くものについては既に論文の形で発表している(“出”に関する論文も2010年に出版予定)。“回”については目下、考察中である。人間の空間認識の中で中核的な位置を占める“上、下”に関してはとりわけ派生義に富んでおり、分析は容易ではない。しかしながら、この2類を考察の対象に取り込むことにより、「中国語の方向補語に関する研究」という1つのカテゴリーを形成できる

こともあり、本研究課題の一連の流れの中でこれらを捉えていきたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

①丸尾誠「中国語の方向補語“出(来/去)”の表す意味」『日中言語対照研究論集』第12号、ページ未定、2010年発行予定、査読有

②丸尾誠「中国語の動補構造“V進(来/去)”について」『日中言語対照研究論集』第11号、日中対照言語学会(白帝社)、pp.1-15、2009年、査読有

③丸尾誠「現代中国語にみられる空間認識」『言語』7月号(第37巻第7号)、pp.64-69、大修館書店、2008年、査読無

④丸尾誠「現代中国語の補語“起来”について」『日中言語対照研究論集』第10号、日中対照言語学会(白帝社)、pp.31-43、2008年、査読有

⑤丸尾誠「中国語における「開始義」について — 方向補語“起来”の用法を中心に —」『言語文化論集』第29巻第2号、名古屋大学大学院国際言語文化研究科、pp.347-360、2008日、査読無

[学会発表](計 3 件)

①丸尾誠「中国語の方向補語“出”の表す意味 — “買出”を例として」中国語教育学会 第7回全国大会 2009年6月7日(日) 愛知大学豊橋校舎

②丸尾誠「中国語の動補構造“V進(来/去)”について」中国語教育学会 第6回全国大会 2008年6月8日(日) 北九州市立大学

③丸尾誠「現代中国語の補語“起来”について」日本中国語学会 東海支部例会 2007年10月6日(土) 愛知大学